

仙台市立 立町小学校

校 歌

土井

晚翠

作詞

田村

虎藏

作曲

一、仰げば高し天守台

俯せば流れも広瀬川

桜が岡となり合う

ゆかしき庭に今立てる

校は開きし古の

その立町の名を変えず

二、桜ほまれの花薫る

わが行く末もしかあれや

仰ぐ昔の跡もよし

清きはかげか我が心

努めて倦まず身をたてて

国と民とのためつくせ

仙台市立 木町通小学校

校 歌

土井

晚翠

作詞

福井

文彦

作曲

一、木町通小学校

明治六年はじまつて

えらい人たち育てきた

その後についで勉めましょう

二、青葉の山と広瀬川

高いほまれの藩祖公

三百年のおんかたみ

眺めて日々に励みましょう

三、かがやく光 東から

東西南北 四つの海

世界すべてが睦むよう

みんなで奮發いたしましょう

仙台市立 片平丁小学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
大槻 貞一 作曲

- 一、塊積り山となり
滴集り川となる
青葉の山に広瀬川
向いのぞめる学びの舎
- 二、無言の教ゆたかなる
山と水とを見渡して
日々に勉めて一生の
基をこゝに養わん
- 三、よくはげむ後よく遊び
正しき心すこやかの
身に智を集め技修め
一日も夢と過すまじ
- 四、小さき幼き今日ながら
二千余年の世々のあと
嗣ぎて第二の国民の
責を務を負わん身ぞ
- 五、国内外に名をあげし
傑れし人はいにしえに
今に多きを心して
われ亦跡を追いやかん

仙台市立 北六番丁小学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
海峰 義美 作曲

- 一、北六番丁の小学に
朝夕通ふ 若き子ら
清く 正しく 朗かに
新の御世に 励みましよ

- 二、今日という日は 今日かぎり
むだに過ごして なるものか
みんなでしつかり 今の中
時間を惜み 勉めましよ
- 三、日本国の復興は
必ず来ます 揺がない
望に満ちて 元気よく
みんなで 一処に 奮いましよ

北五番丁高等小学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
幾屋 純 作曲

- 一、青葉廣瀬の山と水
そびゆるはしる郷の北
北の高等小學の
- 二、小さき種のそだつ時
空つく高き木は繁る
くだるしづくのやまぬ時
堅き巖も穿たれん
- 三、右と左のいさゝかの
隔末はいや遠し
降らば雲の上までも
- 四、再び寄せぬわかき日を
さらば空しく去らしめす
心を磨き身を鍛へ
後の榮の基おかん

旧制 岩手県女子師範学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
山田 耕作 作曲

- 一、不來方大城の跡しめ建てる
学びの我が舎のかたどるしるし
すずらんすずらん香りは高し
高きはわれらの抱ける理想
仰げば岩手の山また高し
- 二、高きはあなたに遠きはここに
北上川水 流れて遠し
すずらんすずらん清きを慕とう
わが業はたまた遠きにおよび
きたらん国民 養い成さん
- 三、明けくれ絶えずも思ひはかよう
姫神山見よ雲井のあなた
すずらんすずらん姿はやさし
やさしき姿も雄々しき心
雄々しく女性の務めにわれは
- 四、にじれる世の波立つことあるも
にじれる世の風吹くことあるも
すずらんすずらんしるしにはじず
乱れず迷わず操を堅く
雄々しく女性の務めにわれは

岩手県立盛岡工業高等学校

校 歌

土井 晚翠
作詞
山田 耕筰
作曲

一、大空に岩手聳えて
大原を北上走る
東北の郷のもなか
工業の教える庭に
集まれる師弟幾百
ああ健児勉めざらめや

二、厚生と利用のみちに
目にふるゝ文化の器
目に見えぬ理想をおはん
高くして遠き未来の
あこがれもうれし青春
ああ健児勉めざらめや

三、紅の頬の光の

さめぬ間に業にいそしみ
身をたてゝ家を治めて
国に、世につくさん願ひ
向上の一路辿りて
ああ健児勉めざらめや

岩手県立花泉高等学校

校 歌

佐藤 虎雄
作詞
土井 晚翠
監修
海鉢 義美
作曲

一、時代に誇る藤原の
ゆかりもゆかし花流泉
そそぐ金流川ぞいの
磐井の郷の土の香に
文化の流れ果てしなく
いぶきぞ新たわが高校

二、旭に薰る松風の
調べも樂し学の園
耕耘の色はとりどりの
稔りをよびて嘗みに
科学の究めたゆみなく
教えぞ宏しわが高校

三、はるかに仰ぐ青雲の

望みも高し須川岳
不抜の意気に螢雪の
功なり卒えて立つや世に
道義の光隈もなく
かざし進まんわが高校

静岡県立焼津水産高等学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
海軍々樂隊 作曲

(昭和十年)

仲野 喜久夫 編曲

(平成元年)

一、エイブノミコト ヲタケビシ
ヤイヅシジョウノ アトトオシ
イマハシカイニ ナヲハスル
エンヨウギヨギヨウサカリノチ

二、ここにもとおき すいさんの
じゅつをさずくる まなびのや
ひびにつとむる せいしゅんの
こらはきぼうのひかりみつ

三、エストワイトヲ タダナカニ
ロクリヨウノホシ ワガキショウ
シソンノオシヘ ミニシメテ
シツジツゴウケンワガヒヨウゴ

四、ぎょうなるあした のりいでん
うしおはながる さんぜんり
たいへいようの そらひろし
すいさんじぎょうわがしめい

旧制 弘前高等学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
弘田 龍太郎 作曲

一、虚空(くう)に羽ばたき南を圖(はか)る
大鵬われらの徽章(きしょう)とかざす
紅顔抱かん理想の高き
譬(たとへ)か岩木の偉大の姿

二、高山仰ぎて景行むかふ

いにしへもろとも此道ひとつ
力を貯へ心を鍊りて
本土の北より嵐の如く

三、希望に溢れて光榮めざし

健児よ活(い)きたる世界に駆けよ
見よ見よ文明進みてやまず
青春わが身に只この一度

青森県立青森商業高等学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
釜范 善 作曲

一、昔は荒涼極めし弘村
明治の御代より次第に富みて

いやまし栄ゆる青森市街
合浦の公園波打つ岸に
商業学校基を置きぬ

二、天下の宝を天下に分ち

あまねく世間に施す利沢
この道聖者の教えに合いて

輝く豊かの未来の望み
望に集まる千余の子弟

三、眼下の海洋広きを眺め
八甲田山高きに対し

鍛えよ我が友心と身とを
本土の極北ところを占めて
思いは四海に遠くも馳せん

岩手中学・高等学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
山田 耕作 作曲

一、旭日におう桜花
其芽大地の深きより

出でて貫く花崗石
郷の名所青春の

意氣をかたどるうれしさよ

二、見よ金剛の不壞の念
神と祖国と人道の

三つに仕えて怠らず
日々につとめて光榮を

期する一団若き友

四、無言のさとし朝夕に
七千尺の岩手山
北上川の八十里
友よ心の目にも見て
いざ向上の道踏まん

旧制 第二高等学校

校 歌 土井 晚翠 作詞
楠美 恩三郎 作曲

一、天は東北一山高く
光一教の因るところ
露に塵なし 踏みわくる

二、花より花に蜜を吸ふ
不斷の渴とめがたき
湧きたつ血汐 青春の

三、思千里の青雲の
「時」の大海岸の砂
夕日の西に沈むとき

四、弧燈のもとに襟たゞす
天地寂たるたゞ中に
倣はざらめや千歳の

五、彼と等しく享けし種
薔薇とほへ蘭麝の香
第二高等學校の

水清き郷七州の
庭のあしたの玲瓏の
われ人生の朝ぼらけ

蜂のいそしみわが励み
智識の泉掬みとらむ
力 山をも抜くべきを

高き理想を身の生命
絶えぬ進歩の跡のこせ
今日は空との憾みなく

夜半の窓の影ひとつ
泣ても慕ふよゝのあと
光、ほまれの不朽の名

扶搖万里の風待ちし
英雄の跡まのあたり
錦かざりし宮城野の
萩のしるしを戴きて
健児幾百あけくれに
S K K の門潜る

身は一片の無価の珠
琢かば闇ぞ照すべき
山河秀麗の郷の空
学の窓にいそしみて
文化の光一線を
放つ希望を養はむ

広瀬の流涼々と
日夜に去りて息なき
跡に日に増し進みゆく
其の研習の業競ふ

S K K のわかき子ら
時の貴さ忘れめや

三、無形の電波精妙の
機械の力建築と
土木のたくみ工業の
化学の術に先覺の
たてし功績仰ぐ時
わが青春の血ぞ熱き

(明治三十八年十月七日制定)

仙台高等工業学校

校 歌 土井 晚翠 作詞
岡野 貞一 作曲

一、扶搖万里の風待ちし
英雄の跡まのあたり
錦かざりし宮城野の
萩のしるしを戴きて
健児幾百あけくれに
S K K の門潜る

身は一片の無価の珠
琢かば闇ぞ照すべき
山河秀麗の郷の空
学の窓にいそしみて
文化の光一線を
放つ希望を養はむ

二、広瀬の流涼々と
日夜に去りて息なき
跡に日に増し進みゆく
其の研習の業競ふ

S K K のわかき子ら
時の貴さ忘れめや

三、無形の電波精妙の
機械の力建築と
土木のたくみ工業の
化学の術に先覺の
たてし功績仰ぐ時
わが青春の血ぞ熱き

四、鳴呼わが健児大局を
世界に眺めいや高き
理想につくす金剛の
力はやまじ青雲の
遠きを仰ぎ業遂げて
S K K の名を揚げよ

五、弧燈のもとに襟たゞす
天地寂たるたゞ中に
倣はざらめや千歳の

咲きてわが世の花たらば
土またさらばかんばしう
名に伴はん常久の榮

福島県立安達高等学校

校 歌

土井 晚翠
作詞
梁田 貞
作曲

一、安達のまゆみ 古しえの
歌によまれし 跡遠し
安達の名負う 高校の
健児きたえよ 心と身
健児かためよ 身と心

二、新たのわが世 あけぼのの
朱のにおいを 見るごとく
「望」はわれを 励まして
高き遠きに 進ましむ
高き遠きを 仰がしむ

三、安達のまゆみ 染めなすは
赤き心の 象徴か
安達の名負う 高校の
健児つくせよ 国のため
健児つとめよ 世々のため

福島県立福島高等学校

校 歌

土井 晚翠作詞
中田 章作曲

一、微章は薰のいみじき梅花
氷霜凌げる練は清し
健児は一千こぞりて励む
福島高校栄えよ永く

二、庭には湛ふる心字の池水
穿ちし由来は尊し優し
六千余尺の姿をそこに
映すや吾妻の山また嬉し

三、大地に根を据え虚空に入りて
高山示せり理想の跡を
我赤日に日にわが歩を進め
あせらず弛まず遠きに行かん

五、あゝ我青春望みにあふれ
教の庭より養うけて
花咲きみのりて世の為立たむ
福島高校栄えよ永く

四、自然の眺め妙なる窓に
朝夕無言の教へにひたり
智徳を磨きて寸時を惜み
紅顔あしたの誇りを思ふ

尚絅学院中学校・高等学校

校 歌

土井 晚翠 作詞
佐々木 英 作曲

一、橄欖山の夕暮れの

歌今遠し二千年

山は裂くるも搖ぎなき

愛と望と信の道

聖き教の御光を

ここにやしまの東北

三、青葉広瀬をまのあたり

錦穿ちて絅尚う

深き警心して

教の庭にいそしめる

ゆかりの郷の春と秋

嗚呼わが姉妹知を集め

色も匂も大能の

操を磨け天地の

御手の描ける跡とみて

神の御榮現わして

酌めど尽きせぬ意を探る

道と邦とにつくす迄

身は清曉の露含み

風に香を吐く白薔薇

塵に染まぬを理想とて